

らしんばん



いずみ 巣立ち通信19

2024年度 第1号

発行責任者 平井 誠敏

編集責任者 羽根 祥充

〒466-0059

名古屋市昭和区福江3丁目5番10号

自立援助ホーム慈泉寮内

就労支援事業 サポートいずみ

TEL (052) 881-7583

FAX (052) 881-7746

E-mail sp.izumi2012@gmail.com

<https://syoutokukai.or.jp/izumi>

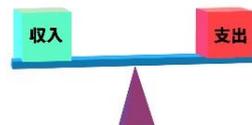
新しい生活には慣れましたか？

4月から、新しい生活をスタートさせた皆さん、施設を巣立ち2年目を迎えた皆さん、新しい環境の変化にはそろそろ慣れてきた頃でしょうか。一日一日大変で、どうしていか考える余裕もないまま過ごしてきた人もいるかと思います。今回は、生活を支えていくお金の使い方を振り返り、これからの生活に役立ててもらえたらと思います。

家計のやり繰りはできていますか？

一人暮らしの家計のやり繰りは、毎月手に入るお金の範囲で、生活に必要な物を買ったり、自分がほしい物を買ったりしていかなければなりません。この2か月はどうだったでしょうか？次の収入が入るまで生活が苦しかったり、貯金が減ったりすることはなかったでしょうか？

金融広報中央委員会の2023年の家計の金融行動に関する世論調査では、20代の単身世帯の若者の43.9%は貯金などの金融資産を保有していないという結果がでているので、生活が苦しいと感じる人の方が多いのではないかと思います。このような状況に置かれていると、思いがけない支出に対応することができません。支出（お金の使い方）を見直してみましょう。



○ 収入はどれだけあるか？

まず、支出を見る前に、自分は1か月どのくらい収入を得ることができるかを見てみましょう。奨学金、給料など・・・それぞれと思いますが、まず月の収入がいくら調べてみましょう。

○ 1か月どのくらい使っているか？

次に、1か月にどのくらいのお金を使っているかを知りましょう。最近は、現金払いばかりではないのでわかりにくいのですが、まず、銀行口座にある預金が前の月の同じ時期より減っていないか見てみましょう。水道料金のように2か月に1回請求があるものなど、1月単位ではわからないものもあるので、複数月から1年見る必要もあるかもしれません。



正確に知るためには、支払ったことがわかるレシートなどの記録をすることも必要になります。今は、写真を撮るだけで計算してくれるアプリもあるので活用すると良いと思います。

○ 支出は収入の範囲に収まっているか？

支出を計算してみて収入の範囲内に収まっていればセーフですが、支出を全部知るの難しいかもしれません。これからの思いがけない支出が発生する場合を考えて、これまでの支出で減らすことができるものはないかを考えてみましょう。

(裏面もあります)

○ 支出を見直そう

何となく無駄遣いをしたなと思う人や何を買わないようにしたらいいかわからない人は、思い切って簡単にお金を使えないようにしてしまう方法もあります。たとえば、別の銀行口座をつくり、月1万円をいれるようにしてみるのもいいと思います。働いている人は会社の天引き預金を利用するのもいいかもしれませんね。

○ 収入を増やすことを考えよう

支出を減らすことばかり書きましたが、収入を増やすことを考えるのももちろんかまいません。

就職した人は、なるべく長く働き続けることは、今は給料を上げることを求める声が強いので、転職を考えてやり直すよりいいと思います。学生であれば、余裕があるならバイトを増やしてみるのもいいかもしれません。

さて、収入を増やそうとすることとの関連で、最近気になっていることがあります。

スキマバイトについて考えてみましょう

履歴書や面接も不要で手軽にバイトが探せるので、利用したことがある人もいると思います。サポートいずみで支援している人が、アプリで仕事を探し実際に仕事をしたということを知ったのは、そんなに前のことではありません。

スマホがあれば簡単に仕事が探せるので、収入を少し増やしたいと考える人には便利かもしれません。しかし、トラブルもあることも知っておいた方がいいと思います。



「仕事の内容が、思っていたものと違った」とか、何か原因があったのではないかと思います。アプリ自体の利用ができなくなった」ということもあるようです。また、このような仕事探しに起きがちなことですが、「高額バイト」という言葉に誘われ、闇バイトに申し込んでしまう可能性もあります。

トラブルに合わないためにも、仕事内容はしっかり確認し、極端に給料が高くないかをしっかり確認することが大切です。また、利用については、あくまでも補助的な手段として考えるべきで、この仕事のみで生計を立てようとするのは考えないようにしたいものです。

今回は、一人暮らしの生活を成り立たせていくためにお金に関する話をしましたが、お金のことを考え出すと、大事なことを見失うことがあります。そこで、最近読んだ本を紹介しておきます。

『きみのお金は誰のため』 田内 学著 東洋経済新報社

読んでみてください



広告に目がとまり、読者の感想を見て読んでみました。

日々の生活を守るためのお金を稼ぐためとだけ、考えて働いているとつらくなってしまうことがあります。このような状態だけではなく、お金をありがたいと思ってお金持ちになろうと考えている状態を、この本では「お金の奴隷^{どれい}」になっていると言っています。

社会は人と人とのつながりで成り立っています。どれだけお金があっても働く人がいなくなったら、この社会は成り立っていきません。お金は、社会で働いて生活していくための道具ではないのに、道具ばかり見ていないかということを考えさせてくれます。

物語形式で書かれていて読みやすい本です。皆さんそれぞれが何か感じ取れるものがあればよいと思うので読んでみることをおすすめします。